

生活に大いに不便を感じた。雨天時には行動が制限されるため、その際に利用できる施設があること、晴天の続く時期を選ぶことが必要である。独自の施設をもつことは無理としても、自然に恵まれた場所にある公的施設が利用できることよい。東北地方は交通の便が悪く、到着出発日として2日を要するので、開催期間は10日程度がよいと思われる。患者の費用は15,000円であったが、交通費などを加えると家庭の出費は大きく、経済的に恵まれぬ者は参加できないことがあるので、基金などによる援助が必要である。キャンプが歴史を加えるとともに、参加経験者が増えるので、キャンプ地独自に、あるいは年毎にテーマを変えることも必要となるだろう。年長女子は特有の悩みをもつので、カウンセリングなどに時間をさく配慮が必要である。学校検尿で発見された患者が4名おり、うち2名は短期間のインスリン治療後、注射を必要としなくなっており、学校検尿の有用性が示された。合併症は2名にみられたが、蛋白尿は全員に認められなかった。

## 小児糖尿病サマーキャンプにおける調査(続報)

大阪市立大学医学部 小児科

一 色 玄

### 1) 糖尿病児の母子関係について

糖尿病児は様々な心理的な問題を持っているためその心理指導の非常に重要なことは常に指摘される所であるにもかかわらず、その母子関係の調査はあまり行なわれていない。我々は糖尿病児とその母親の心情を理解し、具体的な援助の在り方を考えるため、小児糖尿病サマーキャンプ参加者48名について「3つの願い」についての自由記述を行なわせた。またその母42名(2名の父と1名の姉を含む)について病気である自分の子供について、および病気の子供を持つ自分について各10項目の自由記述を制限時間内に簡条書きにさせた。病児と母親の記述を整理すると表1~4のようであった。まず病児の「3つの願い」からは病気治療への願いが全体の54%を占め、他の願いよりも有意に多かったが、その際病気を治してほしいとする受身の構えが濃厚であり、また力の強い万能者へのあこがれ、志向が多い点が問題である。年齢が進むにつれて自分の生活のことを現実的に考えてくるかしかし他方病気治療への願いも切実となっている。母親については罪償感、子供に対する心配、それと密着する自責感が非常に強く、中には拒否的な感情もみられる。また子供に対する心配、期待、親としての苦しみ、悔みが不感感を土台にして

拡っている。親自身のこれからのあり方については大方は子供のためにがんばりたいと自らを励まし、無理しているのが感じられる。個々の症例について親子の記述を比較検討すると、強い自責感を持つ親に親の気持を負担に感じる子、逃避しようとする子がみられ、また自信を失った親に対して甘え坊、孤立した子が散見され、放置できない親子関係のひずみがうかがわれた。

要するに親自身も相互に病気であることに異常にとらわれ、そのために罪愆感、自責感など過去に生きようとしていたり、またあこがれや自由な生活を求めて未来に生きようとしている所に問題点があると思われる。少数ではあるが「糖尿病になって人にできないことを学べた」とか「親自身成長し強くなった」などの肯定的感情を伝えるものがあり、このような現実の認識に基く肯定的な考え方が今後の母子のあり方として望ましいと思われる。そのためには個別的集団的なカウンセリングを通じて母・子の教育を行うことが非常に重要であると思われる。

## 2) 糖尿病児のCペプチド分泌能について

糖尿病児の血糖のコントロールは発症後の年数に従って非常に難しくなっていくのであるが、我々はその一因として残存インスリン分泌能、インスリン抗体の産生を考え、糖尿病児10名について glucagon を静注し、その後のCPRを経時的に調べた所、成人型糖尿病患者と略同様の反応が認められ、また5年以上治療をうけている5人中4人にCペプチド分泌が認められた。インスリン抗体の検索も行ったが、Cペプチド分泌不良のもので抗体(-)の者や、CPR良好であって抗体(+)で、しかも治療は6年以上継続しているものがあつたりして抗体との相関は明らかでなかった。また血糖とCPRとの相関も明らかでなかった。以上よりC-peptide の意義については不明の点が多く今後の検討が必要と思われた。

## 3) 糖尿病児のビールス抗体価について

近年糖尿病の発症に関連してビールス感染との関係が興味をもたれている。我々は小児糖尿病46名について各種ビールス抗体価(Cox A 4, 9, Cox B 1, 2, 3, 4, 5, 6, 水痘, ECHO 4, 7, 9, 風疹, 麻疹, ムンプスなど)を検索し、ムンプス抗体保有率が有竟に高いことを認めた。また発症直後の一症例にCox B 4 中和抗体価の高値を認めた。これらは小児糖尿病の発症にこれらのビールスが密接に関与していることを示唆しているものである。

表1

「3つの願い」(I)

対象：キャンプ参加者 48名

カテゴリー	事項	計	7才	8才	9才	10才	11才	12才	13才	14才	16才	17才	20才	21才
病気の治癒 (73)	病気を早く治してほしい。	36	2 1	2 1	1 2	3 2	4 4	3 1	1 1	1 2	0 3			0 2
	注射は嫌だ、薬にしてほしい。	12		3	1	0	1		0	4	2	1		
	甘いものなど食物を自由に食べたい。	12		0	2		0	1		0	1	1	0	
	病気を早く治したい。	7		1	1	0	0	1	1	2				
	丈夫な体になりたい。	3				1	1		0	1		★		
	早く退院したい。	2		1	0		0	1						
	死にたくない。	1					1	0						
	仮面ライダーなど強い力を持つもの。	8	1 0			1	2	1	1	0	2			
	医師・薬剤師。	5			1	0	0	2	0					
	金持ち。	5			1	0	0	0	1	1				
くになりたい (26)	プロ野球選手などスポーツ家	4	0			2			1	0				
	ピアニストなど芸術家 他	4	1			1	1		1	0	1			
	患者数 (男/女)		1 1	3 2	3 2	4 3	4 5	3 1	2 4	1 3	0 3	0 1	0 1	0 1

★ “病気になるって人に学べないことができてよかった。でも全快できたら！”

表2

“3つの願い” (Ⅱ)

対象：キャンプ参加者 48名

カテゴリー	事 項	年 令 (才)															
		7	8	9	10	11	12	13	14	16	17	20	21				
9 ほ い し い	勉強ができるように。	0 1	0 1	0 1	0 1	0 1	1 0										
	スポーツができるように。			0 1		1 0											
	ギターなどができるように。					2											
8 ほ い し い	小遣、テレビ、グローブ、プラモデルなどが欲しい。	2 1	1 0	1 0	1 0	3 0											
	幸せな生活がしたい。						0 1		0 2	0 1	0 1						
	独立自活したい。											0 1	0 1				
2 0	自由にごこかへへ行きたい。			0 1	0 1	0 1	0 1										
	家族が幸せに暮してほしい。		0 1	0 1	0 1	2											
	友人がほしい、仲良くしたい。			1 0				0 3									
患 者 数 (男/女)		1 1	3 2	3 2	4 3	4 5	3 1	2 4	1 3	0 3	0 1						

表3 病気である自分の子どもについての親の記述

カテゴリー	小計	合計
<b>I 子どもに対する心配</b>		
将来(自立・自活・結婚など)のこと	41	73
現在の病気の状態・変化のこと	20	(28%)
養育の仕方(甘やかしなど)のこと	12	
<b>II 子どもに対する認識</b>		
ふびん・かわいそう	28	51
否定的な見方(精神的に不安定)	14	(19%)
肯定的な見方(精神的に強い)	9	
<b>III 子どもゆえの親の苦悩</b>		
罪償感情	13	32
自責感	3	(12%)
つらい・やり切れない	16	
病気でなかったらなどの仮定	19	30
なぜ病気になったのか等の疑問	11	(11%)
<b>IV 子どもに ~ してやりたい</b>		
病気を治してやりたい	7	24
自活できるようにしてやりたい	8	(9%)
よい性格の子にしてやりたい	9	
<b>V 子どもが ~ であってほしい</b>		
強い心の持ち主になってほしい	20	53
元気で明るい子になってほしい	15	(20%)
病気を治してほしい	11	
自己コントロールできる子になってほしい	7	
	263	

表4 病気である子どもを持つ自分についての記述

カテゴリー	小計	合計
<b>I</b> 子どもに対する心配 将来(自立・自活・結婚)のこと 現在の病気の状態・変化のこと 養育の仕方のこと 子どものこと・心配で不安だ	29 10 9 16	64
<b>VI</b> 親として ~ ありたい 子どものために頑張りたい 子どもを見守って行きたい 人のために働きたい 健康を保ってゆきたい 女性らしくありたい 今のままでは仕方がない・あきらめる	25 12 4 8 5 5	59
<b>III</b> 子どもゆえの親としての苦悩 a 罪愆感情 自責感 つらい・やり切れない b この子を生まなかつたらなどの仮定 忘れてしまいたいなどの否定	14 10 18 8 3	42 11
<b>II</b> ふびん・かわいそう 困った子どもだなどの不満	7 12	19
<b>IV</b> 子どもに ~ してやりたい 自活できるようにしてやりたい よい性格の子にしてやりたい 何でも自由にしてやりたい	8 7 7	22
<b>V</b> 子どもが ~ であってほしい 元気で明るい子になってほしい 幸せな将来であってほしい	4 10	14
<b>VII</b> 子どもゆえの親としての喜び 子どもが明るく積極的になった まわりの人のお世話がうれしい 親自身が強く成長したと思う	6 2 5	13

↓  
**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります  
↓

#### 1) 糖尿病児の母子関係について

糖尿病児は様々な心理的な問題を持っているためその心理指導の非常に重要なことは常に指摘される所であるにもかかわらず、その母子関係の調査はあまり行なわれていない。我々は糖尿病児とその母親の心情を理解し、具体的な援助の在り方を考えるため、小児糖尿病サマーキャンプ参加者 48 名について「3つの願い」についての自由記述を行なわせた。またその母 42 名(2名の父と1名の姉を含む)について病気である自分の子供について、および病気の子供を持つ自分について各 10 項目の自由記述を制限時間内に箇条書きにさせた。病児と母親の記述を整理すると表 1~4 のようであった。